

2011.3.25 「福島原発事故は人災ではなかったのか」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日で震災から2週間が経ちましたが、未だに避難所で過ごす方が多くいらっしゃる、食糧や燃料も十分でない状況です。物資が被災地に行き渡るために、我々も与野党問わず全力で頑張りたいと思っておりますので、被災された皆様には頑張って頂きたいと思います。また、死者の数が1万人を超え、今後、2～3万人に増えるのではないかと言われております。お亡くなりになった方々には、心からお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

さて、今週から国会の審議が再開され、今日の財政金融委員会では、予算委員会から委嘱された議案の審議がありました。私の質問の様子が参議院のインターネットHPから見られますので、ぜひ、ご覧になって頂きたいと思います。

私の質問に関連する話として、まず、先日、公述人の意見聴取がありました。ここにおいて、自民党側は京都大学の藤井聡教授から日本の復興計画について意見陳述をして頂き、民主党側からは、菊池先生という方からの意見陳述がありました。奇しくも、藤井先生と菊池先生は全く同じような意見でした。その内容とは、震災からの復興のためには大規模な国債発行が必要であり、また、その国債賄うに十分な体力が日本にはある、そして、それは市場で吸収できるが、尚且つ必要な場合には、協調により日銀が国債を買い取ることによって震災の財源を賄うことができるというものでした。しかも、菊池先生は、民主党

が政権交代して、自民党がかねてからやってきた小泉路線、いわゆる構造改革、市場原理主義、小さな政府等の誤りを正すことを期待していたのに、菅政権は小泉政権より、それを一層悪化させてしまっており、市場化路線、小さな政府路線、デフレ推進路線が大間違いであるということを明確にお話しになりました。私は、わが意を得たりという思いがしました。民主党が推薦する方ですら、今の菅政権の問題点を指摘されていたのですが、ぜひ、そのことを民主党もしっかりと認めて政策の方向転換をしていただかなくてはならないと思います。

以上のことを、今日の財政金融委員会で指摘し質疑をしてきました。これから政策転換をして行かなくてはならないと思いますが、被災地の復興だけではなく、本来は地震が起きなくてもインフラの整備はしなければならないことであり、それをしなかったためにデフレに陥ってきたのだということを私は申し上げてきました。これからも、この問題について主張していきたいと思っています。

また、福島第一原子力発電所についても言及したいと思います。地震以来、いまだに放射線物質が漏れ出しており、電源が復旧してもしばらくは止まらないということです。これは非常に大きな問題であり、早く対処しなければなりません。

そして私は、この事故は人災の面が強いのではないかと考えております。津波によって緊急用の電源までストップしたのは想定外のことだったかもしれ

ません。しかし、今となっては周知の事実ですが、今回の問題を起こしているのは炉心の冷却システムだけではなく、原子炉の上に置いてあった使用済み燃料棒のプールにもあるのです。使用済み燃料棒は水の中で保管しているのですが、それも熱を持っており、冷却し続けなければ水素爆発が起きてしまうのです。我々は初めて知りましたが、東電の関係者や原子力の専門家であれば皆知っていた事実だと思います。本来、津波が起こった直後だったら、プールに水を補給しておくことは可能だったはずで、爆発前であれば放射能漏れていなかったはずですから、ここに消防車を入れて、海水を注入できるようにしておけば、高温によって水が還元されて発生した水素で水素爆発が起こり、散々たる結果になることもなかったはずなのです。そう考えると、地震が起こったとき、政府や東電は一体何をしていたのかと思うのです。津波は仕方ないとしても、その後の対応に問題があったことは否めないと思います。このようなことは、今後、うやむやにすることなく、しっかりと検証し、責任の所在を明らかにしていかななくてはならないと思います。震災の復興、原子力発電所からの放射能漏れを収束させることが急務ですが、これらの問題の原因の究明もして行かなくてはならないでしょう。

来週、国会で予算の採決があります。我々は反対ですが、政治の日程が進んでいきます。皆様方に、そのこともお伝えしたいと思っております。

震災を受けられた方、我々が必ずこの国を守って立て直し、皆様方を守って

参りますので、もうしばらく頑張ってくださいますことをお願い申し上げます。

ありがとうございました。